



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 228 号

2022/ 10

戻りつつある人流

反転攻勢の機会を逃すな！

■9月22日深夜、ついに総理より全国旅行支援の開始と入国規制の大幅緩和が発表された。感染者数は以前、高い水準を見せているがかつてない規模の行動制限の緩和で3年近くに及ぶ苦境から今度こそ脱却できる望みが見えてきた。すでに何度も触れてきたことであるが、コロナ禍以降の「移動」というカテゴリーにおいて最も回復が遅れているのは長距離移動である。人流データをまとめる agoop 社のデータを見てみると関西圏から他県への移動を見てみると近距離は2019年比を超えたが、長距離移動の回復が鈍いことが分かる。JR各社の特急列車の利用実態も2019年比で50~70%程度であることを考えると、人々が長い距離を移動しなくなっている実態がよく分かる。

■例外もあるがJRをはじめ交通機関の主たる稼ぎ頭は長距離輸送だ。当然ながらこれらの利用が戻ってこない限りJR各社は赤字経営が続くだろう。インバウンド特需の復活と国内の長距離移動の回復で交通各社の収益が改善し、サービスや交通を取り巻く長いトンネルから抜け出すことを期待したい。何よりこれまで「不要不急の移動は控えてください」「県跨ぎの移動はやめましょう」というメッセージを発信し続けてきた政府がようやく公的に「自由に移動してもいいですよ」という内容に切り替えたのである。遠くに行きたい、知らない世界を見たいというのは人類が本能的に持っている探求心だ。自由に移動できる時代が返ってくる予感がしており、筆者としては長いトンネルから今度こそ抜け出せると信じたい。

■だが、3年弱のコロナ禍の中で社会はリモートワークやオンライン会議の浸透、ネットショッピングの習熟により本格的に「移動しなくても良い社会」が同時に到来した。実際に筆者もコロナ禍で初めてテレワークや楽天市場等を活用したが、慣れてしまうと「こんなに便利なものはない」と思っているし、コロナが完全収束しても活用するつもりだ。社会の多くの人々がその事実気づいてしまったし、自然にコロナ前に回復することはほぼあり得ない。したがって目的地を合理的に結ぶだけの特急列車や高速バスなどの従来型の長距離移動サービスで稼ぐのは今後難しいだろう。

■当然ながら「移動しなくても良い社会」は地域経済にとっても大きな波紋を呼ぶ。人口が減少していく中で交流人口の促進により観光と経済の活性化を目指す自治体はたくさんある。交通事業者のみならず、飲食店や宿泊業、観光産業などは今や地域の雇用や経済を守る中核を成しており、行政にとってもこれらのトータルコーディネートは必須の課題だ。今後、コロナ禍から本当に脱却していくためには「わざわざ移動してでも見たくなる・体験したくなる地域

づくり」という視点が欠かせないであろう。実際にコロナ禍でも人気の観光列車や飲食店はかなり予約が取りにくく状態が続いている。本当に価値があるものに人々はお金を出し、時間も費やす。この傾向はより顕著になっていくだろう。

■インバウンドがどれほど戻ってくるのか。全国旅行支援でただけ傷ついた地域経済が戻るのか。これは未知数である。しかし、一時的な特需に溺れてしまっては意味がない。繰り返すが、何もしくとも以前のような状況が返ってくることはあり得ないのである。筆者は大の旅行好きである。自由に移動したいし、日本にも世界にも素晴らしい景色や食べ物、文化がたくさんある。これを実際に体験することなしに人生を終えるのは極めてもったいないことだと思う。先人から受け継ぐ素晴らしい資源を受け継ぎたいと思うし、1人でも多くの方に見ていただきたいと思う。観光とは本来そうした地域の優れた点を見るものだ。この原点に立ち返り、より素晴らしい財産へと磨き上げることが出来るかどうか。我々はまさに正念場に立っている。

(瓦版編集部注記)JRグループは長距離輸送、観光業はインバウンド需要に活路を求めてきたが、ここで今一度地域の通勤通学・近距離観光の需要喚起が必要とされている。岡山市・倉敷市などの電車バス無料デーは、こうした日常的移動に注目した取り組みとして、世界的潮流の一部とみることも出来る。

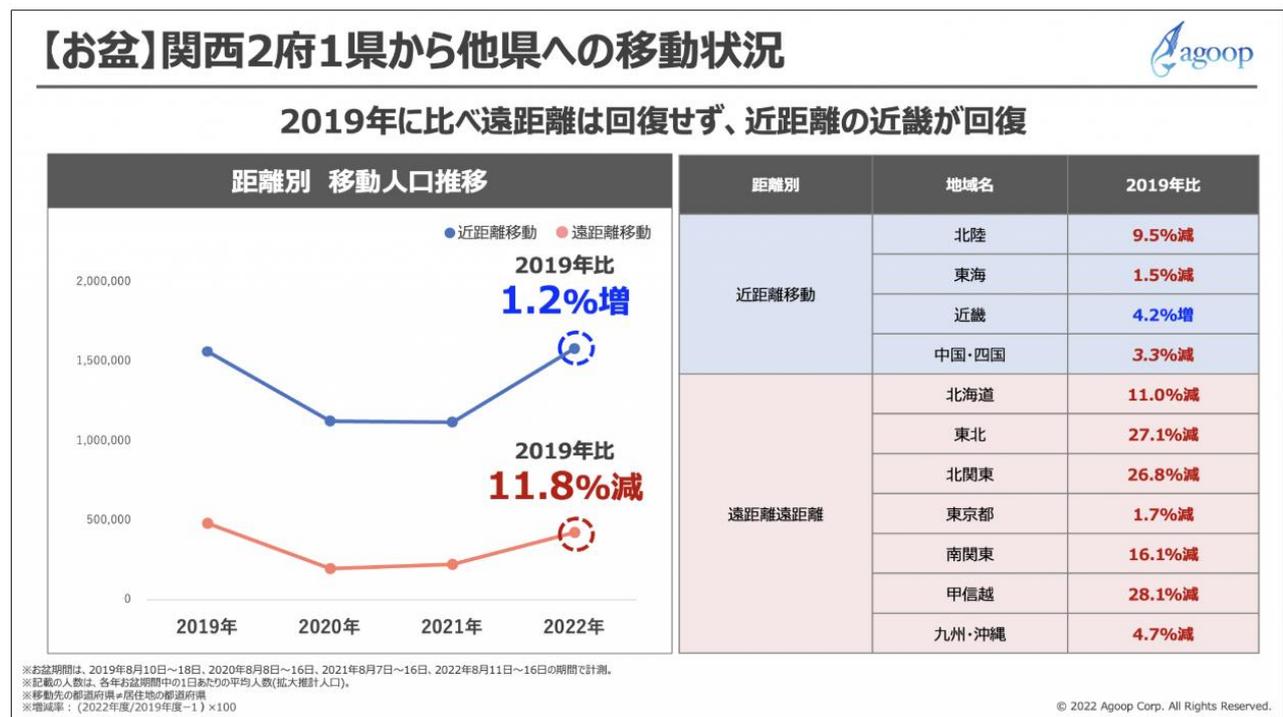


図: agoop 社の分析結果より。長距離移動は苦戦が続いており、これが交通事業者の収益に直結している。

NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)
 事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502
 E-mail: info@racda-okayama.org
 URL: http://www.racda-okayama.org

RACDA 検索

